

6階ユニット

看護師長 狩野桂子

1 部門目標

エビデンスに基づいた安全な看護を行い、地域と連携する

2 業務体制・スタッフ

内科外来、内科・消化器内科病棟 53 床（COVID-19 対応病床を含む）

受け持ち制、固定チームナーシング、7 対 1 看護体制 感染症病床 4 対 1 看護体制

看護師 31 名 看護補助者 2 名 介護福祉士 2 名

3 業務実績

令和 2 年度の在院患者数 10, 615 人、一日平均患者数 32.4 人（前年度比+3 人）

病床稼働率 61.1%（前年度比-5.9%）、平均在院日数 9.0 日であった。

感染症病床における COVID-19 陽性患者の受け入れについては、4 月～3 月末までに延べ 1654 人、病床稼働率は 65.48%であった。

4 1 年間の総括

「エビデンスに基づいた安全な看護」を実践するため、学習会等により知識を深める事に取り組んだ。コロナ禍により研修の開催が中止となる中、eラーニングを活用し、学習会を複数回に分けて実施。学習を通じ深めた知識を基に、個別性のある看護計画の立案・多職種カンファレンス開催方法の見直しに取り組んだ。また、退院支援に関する看護師の意識改革を行ったことにより、後期は退院後訪問の実施件数も増加し、地域との継続看護に繋げることが出来たと評価する。次年度に向けては、今年度深めた知識や多職種カンファレンスでの検討内容を基に、実践に繋げる事が課題である。

5 今後の目標

コロナ禍で行う患者家族への意思決定支援では、療養環境の選択などにおいて、様々な倫理的ジレンマを感じた。また、COVID-19 陽性患者の受け入れを行う中で、これまで経験することのなかった患者を受け入れ、様々な診療科と連携し看護実践に繋げる事を経験した。この経験を次年度のスタッフ育成に繋げていきたいと考える。